授業科目名・形態	日常生活支援技術演習Ⅴ　演習	必修・選択の別	選択	単位数	1
科目担当者氏名	冨樫　大	実務経験の有無	有	開講期	2年前期
科目ナンバリング	W4-2009c				

【授業の主題】

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。生活支援技術論での学習を踏まえ、機能低下や障害がある人などの入浴・清潔場面において適切な介護が実施できることを目指す。ICF に基づくアセスメント、日常生活における清潔の意味や必要性、清潔援助の種類と方法を深く学ぶ。

【到達目標】

1．その人らしく生きるための自立（自律）に向けた入浴・清潔保持の意義・目的を理解し、説明できる。
2．利用者の潜在能力を引き出し生活拡大が図れるよう、個別性や創意工夫を凝らしたケアの必要性を理解する。
3．清潔介護における専門的な知識・技術・態度を習得し、安全かつ安楽に実施できる。
4．清潔保持の場面における観察（アセスメント）が、多職種連携や生活支援の質にどう直結するかを理解する。

【授業計画・内容】

第 1 回：人間にとって清潔とは何か、清潔の意義・目的
第 2 回：入浴・清潔に関するアセスメント①：ICF の視点
第 3 回：入浴・清潔に関するアセスメント②：障害特性と個別性
第 4 回：入浴と清潔ケアの基礎知識：種類、方法、留意点
第 5 回：安全・安楽な介助技法①：全身清拭、手浴・足浴
第 6 回：安全・安楽な介助技法②：洗髪の技術
第 7 回：安全・安楽な介助技法③：入浴・シャワー浴（一般浴）
第 8 回：安全・安楽な介助技法④：機械浴槽の理解と活用
第 9 回：安全・安楽な介助技法⑤：洗面、爪切り、整容等の細部ケア
第 10 回：障害・状態に応じた留意点①：感覚機能が低下している場合
第 11 回：障害・状態に応じた留意点②：運動機能が低下している場合
第 12 回：障害・状態に応じた留意点③：認知・知覚機能が低下している場合
第 13 回：他職種連携と福祉用具・身近な物品を活用した環境整備
第 14 回：実技チェック①：手順と安全性の確認
第 15 回：実技チェック②：アセスメントと声掛けを含めた総合評価

【授業実施方法】

グループワーク、演習形式とする。介助者役・利用者役を交互に体験することで、心理的な羞恥心や身体的な安楽さを肌で感じ、より良いケアのあり方をディスカッションする。

【事前・事後学習】

事前学習：前回の演習で学んだ手技のポイントを復習し、関連するテキストの該当箇所を確認しておく（30 分）。
事後学習：今回の演習で実施した手技のプロセスを振り返り、留意点や自己の課題を整理する。（30 分）。

【主な関連する科目】

介護の基本、介護総合演習、生活支援技術論

【教科書等】

最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 中央法規出版

【参考文献】

適宜紹介する

【成績評価方法】

筆記試験（知識の習得）60%、実技チェック（技術の習得）30%、演習への取り組み 10%により総合的に評価する。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

施設・居宅の両現場における実務経験に基づき、単なる「汚れを落とす作業」ではなく尊厳保持と両立した清潔保持のあり方を教授する。全身状態の観察や、人間工学に基づいた安全な入浴・清拭技術、さらには福祉用具を活用した環境整備について、エビデンスに基づいた実践的な指導を行う。また、多職種連携における皮膚トラブルや健康状態の情報共有の重要性を理解し、生活の質（QOL）を維持・向上させるための技術と判断力を養う。

【学生へのメッセージ】

本演習では、身体の仕組みを理解し、安全・安楽で自立を促す入浴・清拭の技術を学びます。「現場で皮膚の状態を直接見て、着替えや入浴時の小さな変化に気づける力」が専門職には不可欠です。実際の生活場面で何が起きているかを知現場での経験があるからこそ、「根拠」が宿ります。将来の自分を支える確かな観察眼と技術を、この演習で磨いていきましょう。